

「FUKUOKA ONE HEALTH」の冊子が発行されました!!

福岡県では、令和2年（2020年）12月、県議会において、ワンヘルスの実践に関する条例として全国で初めてとなる「福岡県ワンヘルス推進基本条例」が議員提案により可決成立し、令和3年（2021年）年1月に施行されました。

令和4年（2022年）3月には、この条例に基づき、福岡県におけるワンヘルスの実践の仕組みを構築するために、福岡県のワンヘルスの推進に関する施策または取組を体系的に整理した「福岡県ワンヘルス推進行動計画」が策定されました。

この度、ワンヘルスのさまざまな取組について、わかりやすく紹介した「FUKUOKA ONE HEALTH」の冊子が発行されましたのでご紹介します。

一人一人の力で、未来をまもる 福岡から世界へ！

人獣共通感染症、生物多様性の損失、地球温暖化といった、人と動物、そして環境の各分野にまたがる問題を解決するには、人と動物の健康と環境の健全性を一体的に守るというワンヘルスの考えに基づいた行動が必要です。



特別な訓練を受けた犬たちは、病気や災害で偏った人々を助けるヒーローでした。

訪問先
MORE WAN
 佐賀県神埼郡大和町大字2071-4

「日本レスキュー協会」の九州の拠点。人と動物の共生を目指し、災害救助犬やセラピードッグの育成・派遣を行う。福岡県と災害救助犬派遣協定を結び、「福岡県獣医師会」とも連携してワンヘルスを推進している。

問1
セラピー
ドッグとは
 どんな犬のことか教えてください。

病気の人や心のケアが必要な人に、いやしを与える犬のことだよ。大きさも種類もさまざまで、生まれて3ヶ月くらいから少しずつ訓練を始める。特別な事ができなくても誰にでもやさしくできる犬だけがなれるんだよ。

問2
セラピードッグは
どんな訓練を受けていますか？

やさしくおやつを食べたり、アイコンタクトをしたり、杖をついている人に寄り添って歩いたり、さまざまな訓練をするよ。また、人と一緒に遊べるように、キャッチボールやフープジャンプなどのレクリエーションも覚えるんだ。

問3
災害救助犬は
どんなことをしますか？

台風や地震などの災害が起きたとき、こわれた家や土砂の中にとじこめられた人々を、おいをたどって見つけたんだよ。「ふせ」のままの前進、離れた場所からの指示、本音と同じがれきりの中の練習など、遊びを通して楽しみながら訓練を受けているよ。

問4
ドッグセラピーには
どんな効果がありますか？

犬とふれあうことで、心があたかくなるんだ。また、介護を受けていたり、入院中で元気がない人でも、犬のお世話をすることで、自分が誰かの役にたてることに気づくんだよ。

問5
これからどんな施設に
していきたいですか？

犬のしつけ教室を開いたり、ドッグランやカフェをつくって、誰でも気軽に来られる場所にしていくよ。九州で災害が起きたときには、災害救助犬をここから派遣したり、ペットと一緒に避難できる場所としても使ってもらおう予定なんだよ。

社員のたけこさんが語る犬たちはスゴイ



教えてるヒト
 セラピードッグ専攻リーダー
 赤木亜規子さん



かいてい
 元気な犬



「何をしたいか」
 聞いてほしい



「何をしたいか」
 聞いてほしい



「何をしたいか」
 聞いてほしい



「何をしたいか」
 聞いてほしい

わたしたちが大切にする 課題解決のための ワンヘルス6つのコト

ワンヘルスには「6つの基本方針」があります。これらに基づいたさまざまな取り組みを行うことで、理念の推進・実現へとつなげていきます。

POINT 01
人獣共通 感染症対策

増え続ける人と動物の 共通感染症に備える。

「人獣共通感染症」とは、人と動物双方に感染する病気のことです。新型コロナウイルスや牛海綿状脳症(BSE)、鳥インフルエンザなど、大きな社会問題となった病気も多く、人の感染症の約60%を占めると言われています。また近年新たに発見された「新興感染症」の約75%にも当たります。WHOで確認されているだけでも200種類以上あります。これらの感染を防ぐには「感染源(病原体を保有している動物や物)」「感染経路(飛沫感染や接触感染など病原体が体の中に入される経路)」「宿主(病原体に寄生される生き物)」の3つの要因への対策が必要です。

● 手洗い、咳エチケット、口腔ケアによる感染予防・防止
 ● ペットの衛生管理、予防接種
 ● 草やぶでの長袖の着用による虫刺され防止

私たちにできること

POINT 02
薬剤 耐性菌対策

薬剤耐性菌から生まれる 問題を考える。

「薬剤耐性菌」とは、抗微生物剤に抵抗できる細菌のことです。薬剤耐性菌による感染症が発生すると、これまで使用していた抗微生物剤が効かなくなるなど、治療が難しくなります。薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗微生物剤の開発は減少傾向にあり、このまま何もしなければ、2050年までに年間1000万人が死亡し、その数はがんによる死亡者数を超えると国連は警告しています。また経済的にもリーマンショック時の金融危機に匹敵するダメージを受ける恐れがあるとされています。薬剤耐性菌を増やさないためには、一人一人の取り組みが重要です。

● 用法用量を守った薬の服用
 ● 薬を飲み切り、あげない、残さない

私たちにできること

FUKUOKA ONE HEALTH ACTION!

細菌 vs 抗菌薬

私たちにできること

多様な生き物の すみ分けを保つ。

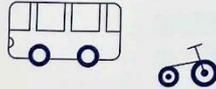
近年のグローバル化や大量消費・大量生産は、森林や生態系を壊し、気候変動の一因になっています。地球温暖化は豪雨や台風などさまざまな災害の原因となり、大規模な森林伐採や急激な開発による都市化は、それまでジャングルの黒地に生息していたウイルスなどの病原体と人が遭遇する機会を生み、新たな感染症が発生す

る恐れもあります。人と動物の健康を維持するためには、多様な生態系を守り、人と動物とのすみ分けを保つことが大切です。そして、豊かな自然環境を次世代に引き継いでいかなければならないことも忘れてはなりません。



私たちに
できること

- 自家用車の使用を控え、排気ガスを削減
- 節電・省エネに取り組む
- ゴミのポイ捨てをしない



FUKUOKA
ONE HEALTH
ACTION!

POINT
03

環境
保護

FUKUOKA
ONE HEALTH
ACTION!

適正飼養で 人と動物の関係を築く。

犬や猫、鳥などの愛玩動物(ペット)は、私たちの生活に誇りと安らぎを与え、今や家族の一員とも言える重要な存在です。また、災害救助やアニマルセラピーなど、社会活動のさまざまな場面で活躍する動物もいます。このように人と動物が共生している一方で、安易な飼養や遺棄や虐待、悪質な業者による販売などが問題となっています。また、過度な繁殖

や不適切な管理により、愛玩動物を介して人獣共通感染症に感染する事例も発生しています。人と動物との関係をより良く保つためには、動物の生態や本質、習性を理解し、動物を飼う場合には、衛生管理に気を配り、寿命を迎えるまで適切に飼養することが大切です。

POINT
04

人と動物の
共生
社会
づくり



私たちに
できること

- ペットの予防接種や健康診断
- マイクロチップを活用したペットの迷子防止
- 野生動物への餌付けをしない



FUKUOKA
ONE HEALTH
ACTION!

動物・環境とのつながりで 健康をつくる。

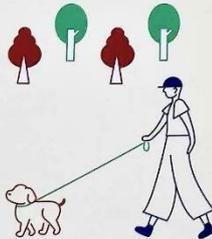
人の健康は、適度な運動習慣の定着や、食生活の改善といったことに加えて、人や動物が心も体も健康な状態で過ごすことができる生活環境において育むことができます。豊かな自然の中を散歩したり、動物と触れ合うことは、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、人を元気にする力があります。また森林とふれあうことは、ストレスホルモンの減少や血圧・脈拍数の

安定、免疫機能の増強など、さまざまな効果があることが科学的にも実証されています。これからの健康づくりは、動物と環境とのつながりも一緒に考えていく必要があります。私たちは、決して人だけで生きているわけではありません。健全な環境と多種多様な動物との関わりの中で、健康を維持しているのです。



私たちに
できること

- ハイキングなどで自然と触れ合う
- 森林浴でリフレッシュする
- 動物園や水族館に出かける



POINT
06

環境と人と動物の
より良い
関係
づくり

安全な食と健全な環境が 健康を支える。

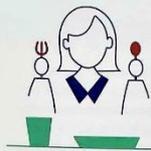
「食」は、私たちの健やかな毎日を支える源です。健全な環境で育った家畜や農作物・水産物を食べるのが、人の健康にも直結します。安全な米や野菜などを作るためには、健全な環境の農地や水産物が必要です。肉・卵・牛乳などの畜産物は、牛・豚・鶏などが健康に育つよう、飼育環境や餌の安全性に配慮しなければなりません。また、

地産地消に取り組むことは、「食」の安全・安心や環境への負荷軽減につながります。そして、「食」に対する知識と、「何を食べるのか」「何を食べてはいけないのか」を学ぶ「食育」を通じて、農作物や水産物が自然環境や動物の「いのち」に関係していることを意識することも大切です。



私たちに
できること

- 福岡県産の食料を積極的に食べる
- 食品ロスの削減(買すぎない、作りすぎない、注文しすぎない、食べきるに努める)



FUKUOKA
ONE HEALTH
ACTION!

こんなに あつんだ!

福岡県の取り組み

01 調査結果を活用した 発生・まん延防止対策

01-1 人獣共通感染症 発生状況等調査

2014年度から、県内動物病院の協力のもと、もっとも身近な愛玩動物である犬や猫を対象に、人獣共通感染症を引き起こす病原体の保有状況調査を行っています。得られた結果は、医療や獣医療、行政関係者で共有し、人に感染した場合の迅速な診断につなげるなどの対策に役立てています。



01-2 薬剤耐性菌調査

薬剤耐性菌は、動物から人、人から動物への伝播が懸念されているため、特に人との濃厚な接触機会が多い愛玩動物における発生動向調査を実施しています。また、人や動物に使用される抗微生物剤や薬剤耐性菌が、河川などの環境水の中にどの程度流出し、人の日常生活でどのように循環し、リスクへと発展するのかを把握するため、河川水の薬剤耐性菌や抗微生物剤の実態調査を行っています。

02-1

福岡県 "One Health" 国際フォーラム



新型コロナウイルス感染症をはじめとする人獣共通感染症などに対して、医療・獣医療・環境などの各分野の世界のトップクラスの研究者がワンヘルスアプローチにより解決していくことを目指し、研究成果を世界に向けて発信します。2020年度から毎年開催しており、国内外の著名な専門家による基調講演や分科会のほか、県民講座も実施しています。

02-2 ワンヘルス 宣言事業者 登録制度



ワンヘルスの考えに基づいた活動を行うことを宣言した県内の事業者・団体を登録する制度です。具体的には、ポスターを掲出するなど、人獣共通感染症の普及啓発や、電気・ガンジオン使用量の削減などに取り組んでいただき、さらにその取り組みを自社HPやSNSなどで発信していただきます。こうした活動を促すことによって、社員の家族、友人、さらには地域や取引先へとワンヘルスの取り組みを広がっていきます。

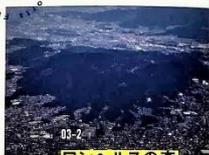
02

ワンヘルスを 福岡から世界に発信

ワンヘルスを体験しながら 学べる場の提供

03-1 ワンヘルス フェスティバル

ワンヘルスに対する理解を深めてもらうことを目的に、2020年度から毎年、県民参加型イベントを開催しています。トークショーやパネル展をはじめ、セラピードッグとお散歩体験や養馬体験、八女茶や地産地消メニューの販売など、ワンヘルスを身近に感じられるさまざまな企画を用意しています。



03-2 ワンヘルスの森

大野城市、太宰府市、宇美町にまたがる約340ヘクタールの森林公園「四王寺県民の森」を「ワンヘルスの森」として整備しています。多様な生き物が生息する豊かな森林で、ワンヘルスを自然の中で実感することができます。新たに森林浴などの体験プログラムを開催するほか、公園内にある学習展示館で、人と動物と森林の関わりについて分かりやすく紹介しています。

04-1

ワンヘルスセンター

新興感染症や地球温暖化などのワンヘルスの課題に対応する実践拠点として、全国初の「ワンヘルスセンター」を整備します。その中核施設として、人の健康や環境保全に関する調査・研究を行う「保健環境研究所」を移転・建設するとともに、畜産、愛玩動物、野生動物、動物園に関する展示動物の保健衛生を一元的に扱う「動物保健衛生所(仮称)」を新設します。他に類を見ない、人、動物、環境の各分野に関する一体的な試験・検査、調査・研究ができる特徴を生かして、ワンヘルスに関する先進的な調査・研究や専門人材の育成を進めています。



新しい保健環境研究所のワンヘルスセンター(仮称)の建築イメージ(左)と、旧館(右)の様子。



04-2

ワンヘルス教育

子どもたち一人一人が、ワンヘルスの理念や具体的な内容を理解できるようにするため、小中学生と教職員に、リーフレットを配布しています。また、県内の高等学校において、ワンヘルスの副教材を活用したワンヘルス教育を推進しています。「ワンヘルス」という考え方を取り上げ、教育を行うことは全国初の取組です。将来の担い手となる若い世代の一人一人がワンヘルスについて考え、行動につながることを期待しています。

04

先進的な取り組みで世界における ワンヘルスの推進をリード

まだまだ あつたよ!

福岡県の取り組み

【福岡県ワンヘルス推進ポータルサイト】

<https://onehealth.pref.fukuoka.lg.jp>

【福岡宣言】

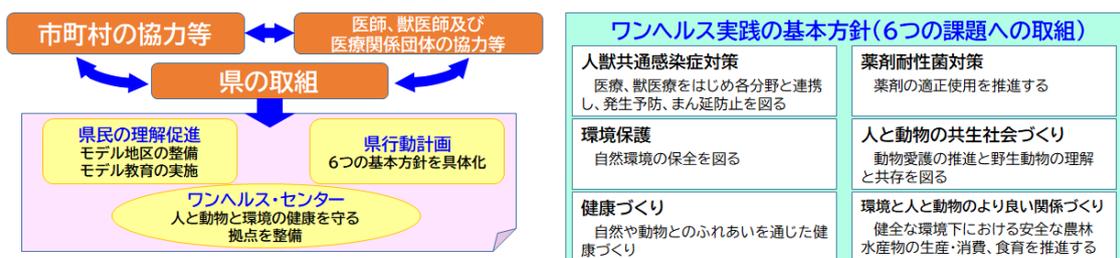
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/135061.pdf>

福岡県ワンヘルス推進基本条例について 全国初 (R3.1.5公布・施行)

○ 世界で人獣共通感染症が多発し、人と動物の健康が脅かされ、生態系の劣化が進む中で、ワンヘルスの実践は喫緊の課題となっている。福岡県において、ワンヘルスの理念に基づく行動又は活動を推進し、人獣共通感染症対策をはじめとするワンヘルスの理念の実践に関する課題に取り組むため、ワンヘルスの実践にかかる基本理念、基本方針及びその基盤となる措置等に関し必要な事項を定めたもの。

○ 条例の主な内容

- ・ 県や関係者の役割分担とともに、人と動物と環境の健康を一体的に守るための6つの課題について、取組の基本方針を定め、これを具体化するための行動計画を定める。
- ・ 県に、ワンヘルスセンターを置き、関係する部局と出先機関が横断的に連携する体制を整備する。
- ・ 事業者におけるワンヘルスの取組及び事業活動への活用等を促進するため、ワンヘルス宣言事業者登録制度をつくる。



○ アジア新興・人獣共通感染症センター(旧アジア防疫センター)(仮称)の誘致

- ・ アジア各国、九州各県、大学等が連携して、人獣共通感染症や薬剤耐性対策を行う「アジア新興・人獣共通感染症センター(旧アジア防疫センター)(仮称)の九州への早期設置を国に要望

【福岡県ワンヘルス推進基本条例】

<https://www.gikai.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/pdf/onehealth.pdf>

【福岡県ワンヘルス推進行動計画(概要版)】

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/160349.pdf>

2022年10月5日

福岡ワンヘルス協議会・事務局